

幼稚園・学校番号	1509413
施設名（園名等）	上ノ原幼稚園

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

年長 5 歳児 きりん組 担任（教諭名）：柴田明日香

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>（タイトル）

木育 ④「花壇をつくろう」

### テーマの設定理由

花や葉、実、種、木など、園内でさまざまな自然の素材に興味を持ち、遊びに取り入れている子どもたちの姿が見られるため、本テーマを設定した。年齢、学年に見合った体験を通して、自然物に触れる面白さ、不思議さを感じることを目的とする。木工工作や花壇づくりを通し、日常的に木や木材に触れ、園生活が自然と調和していく喜びを味わうことを目指す。子どもとともに木のいのちに触れながら園庭環境を創り上げていくことのできる余地や可能性を生かす。

### 2. 活動スケジュール（活動の流れ）

<1回目>（1月）

- ① 花壇を作ることを伝え、クラス内でイメージを話し合う。
- ② ワークショップ当日、木育インストラクターより木材の種類や作るものの説明を聞く。
- ③ 木材に塗装をする。
- ④ ネジ入れ、杭打ちをする。

<2回目>（2月）

- ① 造園業者より、土と苗の説明を受ける。
- ② 土と肥料を混ぜる。
- ③ 花壇の中に土を入れる。
- ④ 8種類の苗を植える。
- ⑤ 苗の名前を記した看板を作る。

↓

毎日、グループ毎に水やりの担当（～3月）

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

##### ・活動のために準備した道具、環境の設定>

- ・木育ワークショップ活動の時間の設定
- ・木育インストラクター、造園業者の指導
- ・木材、塗料、刷毛、ネジ入れ杭打ちの道具
- ・土、肥料、8種類の苗、看板に使う木材

##### ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり 等を記載

- ・幼稚園に卒園後も残る大きな花壇を作れることに喜びを感じている子どもたちの様子があった。
- ・ワークショップ当日を迎える前に、あつまりの時間を通して、事前に花壇づくりの話をした。「花壇」のイメージや用途を知らない子どももいたので、丁寧な説明、子どもたちが期待を持てるような声掛けを意識した。使用する色や配色のイメージ、どのくらいお花があると綺麗か、どのお花かわかるようにするにはどうすれば良いかなど、みんなで話し合った。「少しのお花だと寂しいから5個よりは多い方が良い」、「分かりやすくするために看板があると良い」など、子どもたちからたくさんの意見が出た。
- ・1回目は、普段触れることの少ない大きな木材に、塗料を塗る経験をした。自分で塗りたい色を選択し、大胆に筆を走らせて楽しんでいた。塗り足りないところがでないよう、友だちと分担して塗り進める姿に年長らしさが表れていた。自分の担当した木材が終わると、積極的に手伝いにいき、みんなで協力して塗装をした。塗料が乾いた後は、ドリルを使用したネジの入れ込み、杭打ちを体験した。工具の大きな音に驚く子どももいたが、ほとんどの子どもが、新鮮な体験に心を動かしていた。
- ・2日目は、花壇への土入れ、肥料混ぜ、苗植えをした。肥料を混ぜる場面では、牛の糞が入っていることにだいぶ衝撃を受けていたが、全員積極的に参加していた。苗を植える場面では、教えてもらった苗（植物）の名前を口にしながら大切に植える様子があった。
- ・花壇の完成後は、保育の中で看板作りをした。

塗装の様子



杭打ち体験



植栽の様子



#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た、教諭の気づき

- ・ 9月の木育ワークショップで行ったペン立てづくりとはまた違って、幼稚園に残るものを作るという活動の中で、より一生懸命な姿が印象的であった。
- ・ どんな色にするのか、どのくらい苗を植えたいのかなどについて話していく中で、子どもたちの期待が高まっている様子が見受けられた。当日は、みんなで協力して塗装していく年長児らしい姿、どの子どもも決して物や自然物を雑に扱わず、大切に肥料を混ぜたり、苗を植えたりする姿に、複数回にわたるワークショップや、日常の木育活動による経験の積み重ねにより、自然に対する思いがどんどん変化していることがうかがえた。
- ・ 花壇が完成してからは、当番制で水やりを始めたのだが、誰一人やりたくないという発言をせず、積極的な姿に、これまでとの意識の違いや、自分たちで作ったからこそ大切にしたいという思いが強くなっていることが読み取れた。